

上野東部だより

2024年3月1日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘東町920
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999



寒さが日に日に増してきた11月29日(水)午後2時から3時半まで、東部地区市民センターにおいて、人権啓発部会並びに東部地区草の根運動推進会議主催で桂花団治さんをお迎えし、「落語のまなざし～ぼくは“笑い”に救われた～」という演題で、人権落語講演会が開催されました。当日は、48名の方が来場されました。

花団治さんは、小学生時代、まわりの子ども達との違いからよくいじめにあい、からかわれたり笑われたりしたそうです。ある日、クラスのお楽しみ会で同級生と漫才をした時、さげすまされて笑われることではなく、自分達で作上げたネタでクラス中に笑ってもらえたことの嬉しさ、高校の落語研究会で、古臭いと思っていた落語を聞いた時に感じた「やさしさ」。それが花団治さんが、落語家を目指した原点だそうです。

落語には、「怒る」人が出てこない。相手がどんな色々なことをしても、「許す」「受け入れる」ところがある。それが落語のやさしさ、あたたかさなのだ、ときいてなるほどと思いました。それが聞いている私達もただ面白いだけでなく、ほっとするところかもしれません。

大阪でいちばん多く教壇に立っている落語家とも言われている花団治さん。落語の道を進む上で学んだ狂言の発声法、狂言独特の笑い方を練習したそうです。落語の途中会場の皆さんも参加して、落語「豊竹屋」にちなんで丹田(おへその下あたり)に力を入れて、狂言の発声法でセリフの言い回しを練習したり、狂言独特の笑い方で笑ってみたりして楽しみました。思い切り声を出して笑いのパワーを感じました。

私達は、落語のまなざしから「他者を疎外するのではなく受容すること」を学びました。私達一人ひとりの行動が、互いに安心して過ごせる地域社会を作っていきます。

最後は、サイン入り色紙の抽選会もあり、盛況の中終了しました。

東部地区市民センターで、11月27日から12月8日まで人権パネル展「障がい者差別解消法について」が開催されました。

〈取材：藤井 恵美〉

落語のまなざし
～ぼくは“笑い”に救われた～
桂花団治の人権落語講演会

人権パネル展



4年ぶりに部会事業活発に開催

健康福祉部会

地域食堂
(毎月第2日曜日)



健康測定
(9月)



～元気で長生き～
介護予防体操(10月)



健康ウォーク～
忍びの里伊賀・甲賀をめぐる
バスハイク～(11月)



環境保全部会

クリーンウォーク
(4・6・8・10・12・3月)



「魔法の水・マイエンザ」
無料配布(7月・11月)



「醒井湧水めぐり・梅花藻の観察」
環境学習会(11月)



生命の花「ひまわり」
事業実施(5月～11月)



教育・文化・スポーツ部会

教育文化視察研修
「石山寺・源氏物語ミュージアム」
(9月)



「知っていますか？」
ウクライナ(3月)



参加者延べ2,000人。
来年度はぜひあなたも参加を!

教育・文化・スポーツ部会

スポーツ大会(11月)



ゲートボール



ボッチャ



ゲートボール



グラウンド・ゴルフ

防災防犯交通安全部会

第16回東部地域
防災フェスタ(10月)



伊賀市防災倉庫
見学(11月)



青色防犯パトロール
講習会(6月)



人権啓発部会

桂花団治の
人権落語講演会
「落語のまなざし～
ぼくは“笑い”に救われた」(11月)



人権パネル展(11月～12月)



産業振興 まちづくり部会

「伊賀、大和路街道」
灯りの芭蕉路(10月)



新鮮市(10月)





緑祭～文化の部～開催



令和5年10月6日(金) 伊賀市立緑ヶ丘中学校体育館で「緑祭～文化の部～」が4年ぶりに通常開催されました。始めに、美術部や科学部等の文化部による発表や吹奏楽部による演奏が行われ、それぞれの作品と真剣に向き合ったり、友だちと励まし合って練習に取り組んだりした姿を垣間見ることができました。

また、コロナ禍では行われていなかった合唱の取り組みでは、各クラスの日頃の練習の成果が発揮されそれぞれの持ち味を生かした歌声が体育館に響き渡りました。合唱の結果は、3年4組が最優秀賞、3年3組が優秀賞となりました。

生徒会執行部主催の全校の発表は大変ユニークに仕上がっており、生徒も先生も参観していた保護者も楽しい時間を過ごしていました。

日々の取り組みに熱心に取り組んだ子どもたちの姿に、心を動かされた一日となったとともに来年も変わらず、この「緑祭～文化の部～」で子どもたちが元気に楽しく発表できることを願いました。



美術部作品



ヒューマンライツ部の発表



科学部の発表



クラスの合唱



クラスの合唱



美術部の発表



クラスの合唱



吹奏楽部の発表

藤堂玄蕃家の墓所

(伊賀市指定史跡)

東部地域には、いくつかの史跡があります。今回は上野寺町大超寺にある藤堂高虎の叔父にあたる、藤堂玄蕃家の墓所を紹介いたします。

藤堂玄蕃家の墓所



天正19年(1591年)、藤堂高虎は豊臣秀吉から伊予国今治7万石を与えられ、紀州粉河から伊予今治に移封した時、粉河超誓寺の住職・暁誉上人も高虎に従って今治に移り、大善寺を建立しました。慶長13年(1608年)、再び高虎の伊賀移封にともない、暁誉上人も高虎に付き従って伊賀に移り、現在地に大善寺を開いたと伝えています。

建立の背景には、関ヶ原の戦いで戦死した叔父の藤堂玄蕃良政の菩提を弔うため、高虎が暁誉上人に建立させたと伝えています。

やがて2代目の光誉上人に大善寺を譲ると、自らは大善寺の隠居寺として「超誓寺」を建立して移りました。

江戸時代、大善寺とその隠居寺の超誓寺の2箇寺がありましたが、明治10年(1887年)大善寺と超誓寺が合併して「大善超誓寺」となり、続いて明治22年(1889年)に「大超寺」と改称して、現在に至っています。

山門は藤堂玄蕃家の菩提寺とするにふさわしい「玄蕃門」と呼ばれる一間薬医門で、18世紀中期に造られたと考えられています。本堂の隣に伊賀西国観音霊場の一つで、三十三体観音を安置する観音堂があります。

墓所には、藤堂玄蕃の墓をはじめ、美旗新田の開拓者となった伊賀加判奉行の加納藤左衛門直盛、伊賀蕉門の一人で6年の歳月をかけて「伊賀名所句集」を編集した山岸半残、大津事件・明治24年(1891年)で知られる巡査の津田三蔵の墓などがあります。



大超寺山門



大超寺本堂



- 大超寺 上野寺町(藤堂玄蕃家菩提寺)
- 宗派 浄土宗 佛生山報土院大超寺
- 開基 慶長13年(1608年)暁誉上人が開基
- 本尊 阿弥陀如来
- 文化財 藤堂玄蕃家墓所(江戸時代)
伊賀市指定文化財

(参考文献 伊賀暮らしの文化探検隊レポートVol.15)

(取材：縄手 稔)

危険は台風・地震だけではない!

街中でもキケンが潜んでいます。こんなところでも危険

「屋外広告塔・街灯のポール、交通標識のポール、広告板及びカーブミラーの脚等、根元付近の金属腐食がすすんでいます」



発見した時は、上野東部地区市民センターまでご連絡願います。
TEL:24-3999

東部地域住民自治協議会 会長 南 徹雄

地域食堂パプリカ(令和5年度)

健康福祉部会

本年度もご参加いただきました皆様方、
ご支援いただきました各団体様及び
個人様ありがとうございました。

- ①JAいがふるさと 様
- ②伊賀市社会福祉協議会 様
- ③(株)タマルタフーズ 様
- ④(株)サンシヨク 様
- ⑤西 祐治 様



まなびタイム



パプリカ食堂



カレーライスとデザート

編集後記

昭和58年に来日したレーガン米大統領は衆議院本会議場で行った演説で、芭蕉さんの句「草いろいろのおの花の手柄かな」を引用し、「自由こそ全ての人を豊かにする多様性と創造性を育むものである」と、自由の重要性を語られたそうです。海外の人からも敬愛されている芭蕉さんが、およそ300年前に多様性を尊重する句を詠んでいることに驚きと心の広さ優しさを感じます。今年は松尾芭蕉翁生誕380年の節目の年です。「おかえり、芭蕉さん ふるさと伊賀へ。」と銘打って様々な記念事業が開催されます。この機会に、伊賀が誇る芭蕉さんの偉大さや尊さを再確認してみたいかたがたでしょうか。

(志賀一鉄)

東部自治協
ホームページは
こちらから

